

# 夢きよく 道はるか

R4.7.15

文責 鈴木 仁



## 1学期の終わりに

4月6日(水)の入学式より始まった1学期が、7月20日(水)の終業式で終わります。4月は教職員も新しいメンバーになり、毎年、手探りな状況でのスタートとなるのですが、その頃の感染症が心配な状況を考え合わせると、無事1学期の終わりを迎えられることを、ほっとすると同時に、うれしく思います。保護者の皆様のご協力があればこそだと思ひ、感謝します。



この1学期は、PTA総会の紙面提案やオープンスクールの延期等、依然、様々な配慮をしなければならないことがありました。それでも予定通り、3年ぶりに、5月に奈良・京都へ修学旅行に行くことができたこと、6月に1年生の林間学校、市総体を行うことができたことも、大変ありがたいことでした。修学旅行から帰ってきて、バスから小瀬の駐車場に降りた時の安堵感は忘れることができません。でも、それ以上に、1学期を通して行った一つひとつの出来事、その瞬間、瞬間の子供たちの笑顔、成長する姿を宝物のように感じました。あらためて、日々の学習はもちろん、子供たちどうしの関わりの中で、子供たちは成長していくのだと感じました。また、PTAの行事として、昨年度まで実施できなかった給食試食会を、人数の制限こそあったものの実施することができたことも、学校の様子を保護者の皆さんに知っていただく機会として意味のあることでした。

1学期を終えようとしている今、感染症が再び心配な状況になってきました。昨年の2学期スタートの分散登校、東輝祭の日程を変更せざるを得なかったことも思い出されます。最も大切なのは子供たち自身なのですから、変更をしていくことも必要なことです。それ



でも、子供たちの健康を第一に考えながら、一つひとつの出来事にこだわり取り組んできた経験を生かして、今後も、子供たちの成長のために頑張っていきたいと思っています。まずは、子供たちの活動を実現するためにどうしたらいいかを考え、取り組んでいきます。その上で、保護者の皆さんとも時間を共有するためには何ができるか、どこまでできるかを考えていきます。

令和4年度生徒会スローガンは「結翔」です。結びつきを大切にして、「新たな東中のカタチ」を創っていく子供たちと共に歩み、みんなで輝く新しい結晶をつくりましょう。『子供たちのために』、想いは同じです。保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします。

# 夏休みです。

7月21日(木)より8月24日(水)まで(8月24日、3年生はサマーテスト)、夏休みとなります。感染症や熱中症も心配な時季ですので、体調管理をしっかりと行い、有意義な時間としてほしいと思います。前半には、県総体や吹奏楽コンクールがあります。部活動の集大成として、関東大会や全国大会を目指して、健闘することを期待しています。最近、夏の甲子園を目指した高校野球の県予選がテレビで中継されることがありますが、東中の卒業生が活躍する姿を見るととてもうれしい気持ちになり、現在の本校の生徒たちも今のうちに力をつけて、それぞれの未来に羽ばたいてくれたらと思います。

長い休みようですが、計画も立てずに何気なく過ごしていると、気がつけば終わってしまうのも夏休みです。本来であれば、2年生は職場体験があります。夏休みは、それに向かって準備をし、実際に取り組む時間でした。2年生ばかりでなく、そういったことができない中で、自分なりに見通しをもって生活することが大切です。学習相談等、学校に来る機会を上手に利用すること、2、3年生は、夏休み後半に Chromebook の持ち帰りも行いますが、そういったことも含めて、計画を立ててみましょう。

この夏休みを通して、みんなが健康で、成長していくことを期待しています。



## 学ぶということ

7月7日(木)の朝、放送による平和集会を行いました。この集会は、6月30日(木)より、朝読書の時間に甲府空襲等の資料を読み、広島平和記念式典に届ける千羽鶴を折る等の取組を通して、平和について考える週間のまとめとして行ったものでした。小野生徒会長が、本校生徒会の「いじめ暴力追放宣言」を重ねて伝えてくれたメッセージは、心にしみるものでした。

同じ日に、1年生がかえで支援学校との交流会を行いました。ここ2年、直接の交流はできなかったのですが、今年度は、本校の4階廊下とかえで支援学校の校庭で、直接、顔を見て、言葉を交わしての交流を行うことができました。この交流は、本校では伝統的に行っているのですが、お互いの個性を認め合う等、子供たちには大切な学びの機会となります。



来年度より、甲府市立の小中学校には学校運営協議会が設置され、全ての学校がコミュニティ・スクールになります。子供たちには様々な可能性があります。学校の中だけでなく地域に出かけ、様々な学びの機会をもつことができればと思います。

直接のふれあいや経験は、子供たちの成長のために、大きな財産になります。コロナ禍が収束し、一層学びの機会が増えることを願っています。